

# 魅力発信！えひめ農業

令和6年 10 月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、11 月中に各普及拠点から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

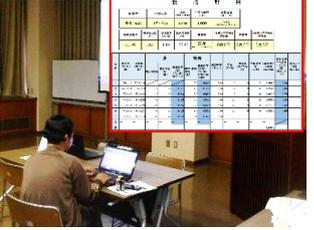
<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 目次

目次	1
10月のトピックス5選	3
いちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト始動	3
さといも種芋の新增殖技術の実証開始に向けたエチレン添加施設を設置	3
雑穀の新たな商品及びメニュー開発について意見交換	4
スリランカ人農業技能実習生3人目が愛南町で実習を開始	4
秋せん定で例年安定生産へ-媛小春秋季研修会-	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
小学生を対象に「デジタル農業体験」を実施	6
就農初期農業者が青色申告や活動事例を学ぶ	6
視察研修で女性農業者組織の商品開発を支援	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
さといも軟腐病実態調査の実施	7
■東予地方局 産地戦略推進室	8
石鎚黒茶の新茶試飲会を開催	8
就農初期農業者研修会で花木の紹介	8
■今治支局 地域農業育成室	9
上浦再編復旧園で新たな土壌流亡対策を実施	9
長期促成トマトにおいて総合防除による黄化葉巻病対策の実証	9
サルの侵入を防止する集落見回りを実施	10
さといもの土壌病害の発生状況について調査	10
「ひめの凜」の産地拡大に取り組む	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
豪雨被災園の営農再開に合わせて鳥獣被害対策研修会を開催	11
しまなみかんきつ研究会を開催	12
■今治支局 産地戦略推進室	12
イタリア料理ファン向けにしまなみみんなのディッシュを紹介	12
花木の挿し木講習会を開催	13
■中予地方局 地域農業育成室	13
環境データの活用による若手いちご農家の育成	13
新規就農者の経営管理能力をスキルアップ	14
猟友会へのアンケート調査による課題抽出	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	15
集落見回り活動による鳥獣害対策を強化	15
次代を担う青年農業者リーダーが情報交換	15
■中地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	16

「久万高原秋の収穫祭」の開催	16
■中予地方局 産地戦略推進室	16
「甘平」の裂果軽減対策の実証結果	16
夏季自家育苗の「さくらひめ」定植始まる	17
■南予地方局 地域農業育成室	17
一次産業女子のグループ化に向け検討開始	17
生食用さといも生育順調	18
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	18
郷土料理づくりで小学生と交流	18
鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施	19
「シャインマスカット」の普及に向けた販売 PR.	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	20
青年農業者を対象にかんきつ省力栽培技術について研修を実施	20
■南予地方局 産地戦略推進室	20
端境期出荷を促す栽培講習会を開催	20
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
八幡浜・松山の小学生にかんきつ出前授業実施	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	21
「紅プリンセス」本格着果に向けて栽培技術を指導	21
定植最盛期！ラディッキオ定植をメディアが取材	22
第2回いちご部会技術研究会で IPM 防除体系を検討	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	23
鳥獣被害軽減に向け集落見回り活動を実施	23
大野ヶ原にんにくの植え付け体験交流会を開催	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	24
7年産麦の安定生産に向けた協議を開催	24

## 10月のトピックス5選

標 題	いちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト始動		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月30日	場所	西条市丹原町池田、西条市明理川	
指導対象	いちご生産者6人 (うち新規加入2人)	連携機関	JA(周桑、えひめ未来)、農産園芸課、農水研、メーカー	
普及指導内容	<p>○栽培環境モニタリングデータを活用し、単収向上を目指す実証プロジェクトのキックオフ研修会を開催した。</p> <p>○本プロジェクトは2年目で、今年度は新たに、データをより高度に活用し、栽培計画の作成支援と栽培計画と実績のギャップを埋めるための栽培改善指導を行うこととしている。</p> <p>○研修会では、栽培計画に加え、モニタリング装置の設置方法、秋季のデータ活用型栽培技術等について説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「昨年度の反省から必要な設備投資を行った。設備を効果的に動かし、光合成をより高めるために、データ活用をしていきたい。」との意気込みが聞かれた。</p> <p>○11月からプロジェクトメンバーでデータ共有を開始し、隔週で勉強会を実施予定。生産者のデータ活用スキルの向上を図る。</p>			
				
	プロジェクト内容を説明	生産者が栽培計画を作成	モニタリング装置設置	

標 題	さといも種芋の新增殖技術の実証開始に向けたエチレン添加施設を設置		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月11日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	さといも生産農家1人	連携機関	JAおちいまばり、岩谷産業(株)、伊予農産(株)	
普及指導内容	<p>○当室が考案したさといも優良種苗増殖法の実証開始に向け、技術の核となるエチレンガスを添加する施設を種苗販売メーカーの伊予農産(株)等と連携して設置した。</p> <p>○実証する新增殖法は、親芋から直接、定植苗を低コストで採取する技術で、エチレンガスの濃度を一定に保つ装置は、じゃがいもの種芋生産で知見を持つ県外大手ガスメーカー岩谷産業(株)から提供されている。</p>			
結果と今後	<p>○完成した実証施設は、屋内に直管パイプを組み立て塩化ビニールを被覆したもので、エチレンガスの添加装置と加温用電熱マット等が組み合わされており、キャリー100個が収納でき、フォークリフトでの搬出が可能になっている。</p> <p>○当室では、同施設で、11月から収穫済みの親芋を利用した増殖実証を開始する予定。今後、低コストで優良な種苗が生産できる技術の確立を図ることとしている。</p>			
				
	被覆ビニールの設置	エチレンガス添加装置	エチレンガス添加施設	

標 題	雑穀の新たな商品及びメニュー開発について意見交換		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年10月28日	場所	JA松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議会員(9人)、県立上浮穴高校(3人)	連携機関	久万高原町、JA松山市、県立上浮穴高校	
普及指導内容	<p>○「久万高原地域食材伝承事業」(局予算事業)に係る推進会議を開催し、雑穀の生産振興や新たな商品開発や販売等について意見交換を実施した。</p> <p>○また、同高校が開発した雑穀を使用したカレーの具材セット「ぷちきびカレー」の紹介や調理の実演、試食を行うとともに、アドバイザーの矢野邦子氏から提案のあった、雑穀を使用したランチセットを紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「メニューを提供する施設の業態に応じたアプローチ方法を考えるには」、「雑穀の供給量に限界があるので増産してほしい」などの意見があり、今後、検討することとなった。</p> <p>○また、地とうきびの粉(はなこ)はポタージュやグラタン等での活用について提案があり、メニュー開発や販売を希望する施設を対象とした調理講習を行う予定。</p> <p>○今年度の雑穀栽培者は23人(前年より6人増)、栽培面積250a(同20a増)となり、今後も栽培者や面積の増加を図るとともに商品化等を通じて広くPRしていく。</p>			
				
		<p>左：ぷちきびカレーの試食 右：アドバイザー考案の雑穀ランチセット</p>		

標 題	スリランカ人農業技能実習生3人目が愛南町で実習を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年10月16日	場所	愛南町御荘平城	
指導対象	(株)フルーツアイランド・マルエム直販	連携機関	農地・担い手対策室	
普及指導内容	<p>○農作業請負方式による技能実習を行っている(株)フルーツアイランド・マルエム直販の現地確認を実施した。</p> <p>○同社は令和5年7月から2人のスリランカ人技能実習生を受け入れており、9月26日から新たに男性1人(22歳)が加わり技能実習を開始した。</p> <p>○同方式に関するガイドラインに基づき、関係法令に則し、適正に技能実習が行われているかなどを、同社代表取締役から聞き取った。</p>			
結果と今後	<p>○代表取締役からは「問題なく実習しており、労働力確保が厳しい中、とてもまじめに働いてくれ助かっている」との感想があった。</p> <p>○当班では引き続き2カ月ごとに現地確認を実施するとともに、労働力不足対策として同技能実習制度の啓発等に取り組んでいく。</p>			
		<p><b>【農作業請負方式】</b> 県が設置した技能実習事業協議会による事前・取組状況の確認を条件に、JAによる共同選果場等の施設と複数の農家圃場を組み合わせ、年間を通じた受入れが可能になる方式</p>		
スリランカ農業技能実習生請負作業				

標 題	秋せんで例年安定生産へ-媛小春秋研修会-		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月4日	場所	八幡浜市保内町	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会 員(23人)	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○県オリジナル品種「媛小春」の連年安定生産を目指し、篤農家から秋せんでの手法を学ぶ実演会を開催した。</p> <p>○県は「結果母枝(果実がなる枝が発生する枝)の長さによって、有葉果(葉を伴う実)や直果(葉を伴わない実)の着果数が異なる傾向である」などの調査結果を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○「この様な枝は、どうせんですればよいか」など参加者からは多数の質問があり、「実際にせんで方法を詳しく見聞きできてよく分かった」「(続けて同じ園で開催したことで)前回からの変化が観察でき「媛小春」の特徴がよく分かる」などの声が聞かれ、大変好評であった。</p> <p>○今後は、結果母枝別の着果率やせんで方法等の調査を通じて着果安定技術の確立につなげるとともに、「媛小春」の魅力を活かしたPRや販売支援に努める。</p>			
				
篤農家が秋せんでのポイントを説明しながら実演		普及指導員が調査結果を説明		

## えひめ農業

標 題	小学生を対象に「デジタル農業体験」を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月23日	場所	新居浜市立船木小学校	
指導対象	新居浜市立船木小学校生（60人）	連携機関	新居浜工業高校専門学校、JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○地方局予算事業「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」の一環で、地元農産物の理解促進のため、生産現場と教室をリアルタイムでつなぎ、遠隔で授業を行う「デジタル農業体験」を実施した。</p> <p>○授業では、菌床しいたけ生産者が、栽培工場から生産工程を説明し、野菜生産者が、教室内でニンジンの播種から収穫までを動画等を用いて講義。</p> <p>○当室からは、地産地消の意義をはじめ、農業関係の用語や講義の内容をわかりやすく解説した。</p>			
結果と今後	<p>○小学生は、普段見ることのできない栽培工場の内部や、ニンジン播種機・収穫機の構造について多くの質問をするなど、授業を通じて農業への興味・関心を深めていた。</p> <p>○次回は、さらなる理解促進のため、実際にニンジンの収穫体験等を行う「リアル農業体験」を実施する。</p>			
				
	生産現場から生中継で授業		生産者にお礼を述べる小学生（右）	

標 題	就農初期農業者が青色申告や活動事例を学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月29日	場所	東予地方局第2庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（27人）	連携機関	新居浜市、西条市、JA えひめ未来、JA 周桑、日本政策金融公庫ほか	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者及び就農予定者を対象に、農業経営に必要な知識や技術の習得を目的に、定期的に「就農初期農業者研修会」を開催し、スキルアップにつなげている。</p> <p>○今回は、税理士による青色申告記帳についての講義のほか、受講生2人による就農後の実態と、品質向上を目的とした資材活用についての活動事例紹介を行った。</p> <p>○当室からは、産地化を進めているさといもの栽培技術等について講義した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「青色申告に初めて取り組むので参考になった」「同じ新規就農者の発表は励みになる」「さといも栽培に興味があった」等の反応があり、それぞれの営農の目標達成を図るうえで、有効な手段となったことがうかがえた。</p> <p>○次回は、「農業簿記」演習や、デジタルツール活用法の研修会を開催予定。</p>			
				
	さといも栽培について		竹綿パウダーを使って栽培したニンニクの試食会	

標 題	視察研修で女性農業者組織の商品開発を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月30日～31日	場所	京都府京都市、岡山県倉敷市	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（6人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○同グループでは、米の新たな活用方法を検討するため、近畿・中国地方への視察研修を行い、当室では、その企画運営を支援した。</p> <p>○京都市の「梅小路発酵所」では、糀の製造を体験し、岡山県倉敷市役所と同市内の米粉菓子店では、米粉普及事業の先進的取組事例を学ぶとともに、商品開発に関する意見交換を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○会員は、糀の製造過程や活用法に関する理解を深め、新たな商品開発のヒントを得るなど、有意義な研修となった様子であった。</p> <p>○今後は、糀を使用した料理研修を行い、レシピ動画を作成、SNS等で発信するとともに、新たな米粉加工品の開発に取り組む。</p> <p>○当室は、女性農業者の活躍促進のため、引き続き組織活動と情報発信を支援していく。</p>			
				<p>左：糀に関する講義 右：米粉菓子店の視察</p>

標 題	さといも軟腐病実態調査の実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年10月22日	場所	愛媛さといも広域選果場	
指導対象	JA うまさといも部会	連携 機関	JA うま	
普及指導 内容	<p>○当班では、管内のさといも農家において、本年の高温や集中的な降雨等により軟腐病が多発していることを受け、病気の発生や栽培管理等に係る実態調査を開始した。</p> <p>○調査は、10月22日から11月上旬頃まで行うこととしており、出荷者への聞き取りにより、管内の発生状況の概要をつかむとともに、次年度以降の改善対策に資することを目的としている。</p>			
結果と今後	<p>○10月末時点では、「軟腐病の発生が昨年より多い」と回答した者が約63%で、一部には、収穫量への影響も確認された。</p> <p>○今後、農林水産研究所等と連携し、調査結果を分析するとともに、次作における技術対策を検討する予定である。</p>			
				<p>左：軟腐病罹病株 右：生産者に聞き取り実態調査</p>

標 題	石鎚黒茶の新茶試飲会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月1日	場所	東予地方局第2庁舎	
指導対象	石鎚黒茶協議会（4団体・生産者12人） 県立西条農業高校（5名）	連携機関	西条市 県立西条農業高校	
普及指導内容	<p>○当室が活動を支援する石鎚黒茶協議会は、今年生産した石鎚黒茶の味の確認のため、試飲会を開催した。</p> <p>○協議会の生産者3団体と今年度から生産を開始した生産者団体「黒茶人」の石鎚黒茶を試飲した後、日本茶インストラクターである脇純樹氏による講評、県立西条農業高校生によるプロジェクト発表を行った。</p>			
結果と今後	<p>○試飲会后、臨時総会を開催し、「黒茶人」が協議会へ加入することが決まり、黒茶生産者は4団体となった。</p> <p>○生産者から「地元の若い人に、石鎚黒茶の事をもっと知ってもらいたい」と要望があり、西条市産業祭において、高校生と協議会と一緒に石鎚黒茶のPR活動を行うことになった。</p> <p>○今後も協議会として4組織が連携して行う石鎚黒茶のブランド価値向上を目指した販売促進活動等を支援していく。</p>			
  				
各組織の黒茶を試飲		脇氏によるお茶の講評		高校生のプロジェクト発表

標 題	就農初期農業者研修会で花木の紹介		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月10日	場所	東予地方局第2庁舎 現地ほ場（西条市徳田）	
指導対象	就農初期農業者（11人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○新規就農者及び就農予定者の農業経営の早期自立を支援するために開催した「就農初期農業者研修会」において、有望品目の一つとして、花木経営の紹介を行った。</p> <p>○研修会では、現地実証ほ場で新規品目の紹介や出荷時期等を説明した後、挿し木講習会を実施し、用土の配合や挿し穂の調整方法、作業のポイントを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「花木に興味があり、苗があれば栽培したい」との意見が多く聞かれた。</p> <p>○今後も、JAと連携し、新規栽培者等の支援を行い、栽培者確保と栽培面積拡大を図る。</p> <p>○なお、当日参加できなかった新規就農者からは、花木の紹介をして欲しいとの要請があったため、個別に対応していくこととする。</p>			
 				
実証ほ場で新規品目の紹介			挿し木の説明	

標 題	上浦再編復旧園で新たな土壌流亡対策を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月25日	場所	今治市上浦町（盛工区）	
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関	連携機関	今治支局農村整備課、今治市、JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○整備園地の降雨による表土流亡を防ぐため、バミューダグラス等の草の種を配合した生分解性の植生シート（1m幅：被覆率25%）の設置を進めている。</p> <p>○同園では、緑肥作物の播種やソイルセメントによる承水路の設置等を行ってきたものの、集中豪雨時には傾斜のある園地の一部で表土の流亡が起こっていた。</p>			
結果と今後	<p>○植生シートには、生育適温等が異なる9種類の草の種子と土壌改良剤（ピートモス）、化成肥料が配合されており、降雨後順調な発芽が確認できた。</p> <p>○今後、順調に樹間の緑化が進めば、植栽位置の土づくりやかん水施設の設置を進め「紅プリンセス」「甘平」等の定植に向けた取り組みを進める。</p>			
				
植生シートを設置した中央区画		生分解性の植生シートを設置		順調な発芽を確認

標 題	長期促成トマトにおいて総合防除による黄化葉巻病対策の実証		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月17、25日	場所	今治市朝倉下、松山市下伊台	
指導対象	JA おちいまばりトマト部会（6人）	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○天敵や防虫ネット等を組み合わせた総合防除技術の推進について、部会総会において提案があったことから、当室は、黄化葉巻病対策の実証を目的に、実証ほを設置した。</p> <p>○実証に当たっては、松山市で事例調査を行うとともに、実証圃において土着天敵のタバコカスミカメを放飼し、害虫の密度を測るための粘着板を設置した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、天敵の定着を図るために、害虫の発生や被害株状況を調査し、タバコカスミカメの効果を確認する。</p> <p>○また、生産者から登録農薬の効果が落ちているという意見が多数あることから、農林水産研究所と連携してウイルスを媒介するコナジラミ類の農薬の感受性を調べる。</p>			
				
部会総会で総合防除を指導		生産者と先進地事例調査		タバコカスミカメを放飼

標 題	サルの侵入を防止する集落見回りを実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月24日	場所	古谷集落梨、柿園地	
指導対象	古谷集落代表者（2人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○当室が鳥獣害対策の重点集落として取り組んでいる古谷地区において、サルの集落への侵入口となっている山際の梨、柿園地の見回りを実施した。</p> <p>○見回りに合わせて、これまでの調査で判明したサルの習性、対策の効果等について、集落住民に説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○見回りでは、草の伸長等により電気柵の電圧が下がっているほ場において、集落住民と除草作業を行うとともに、侵入防止柵、ネットの再点検等を行った。</p> <p>○当室は、サルの被害を受けている管内の集落代表者等を対象に、これまでにセンサーカメラで撮影した映像等を基に、サルの習性や対策について紹介、説明する研修会を12月に開催することとしている。</p> <p>○引き続き鳥獣害防止に向けた集落づくり活動を支援する。</p>			
				
電気柵の電圧測定		電気柵の漏電防止のための除草		サルの習性等について説明

標 題	さといもの土壌病害の発生状況について調査		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月15日	場所	市内さといも実証ほ場	
指導対象	さといも生産農家（5人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○本格的なさといもの出荷時期を迎え、生産者から例年より腐った芋が多いとの声があることから、土壌病害の発生状況を把握するため発生ほ場を調査するとともに、被害株を掘り取るなどして発生原因を調査した。</p> <p>○また、調査結果については、農林水産研究所にも報告し発生原因等について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○被害株の多くは、株当たり2～2.5kgの子芋、孫芋が着生しているものの、その中の1、2個が腐っており、親芋から腐り罹病が進行したと思われる症状は少ないことを確認した。</p> <p>○当室では、引き続き関係機関と現地調査を詳細に進めるとともに、発生原因等を明らかにしたうえで、次年度に向けた病害対策を進めていく。</p>			
				
罹病株の掘り取り		土壌病害に罹病した株		罹病した子芋

標 題	「ひめの凜」の産地拡大に取り組む		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月10日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者	連携機関	JA（おちいまばり、今治立花）、今治市	
普及指導内容	<p>○今治地区の令和6年度「ひめの凜」認定栽培者は、365人201ha（R5：81人67ha）で、昨年に比べ面積ベースで3倍に増加。</p> <p>○このほど、農事組合法人かみあさライスセンターでは、収穫の開始に当たり、その模様を報道機関に公開した。</p> <p>○当室では、出穂期（8月下旬）以降の猛暑対策として、個別巡回や広報誌による肥培管理の適正化指導を強化するとともに、JAと今治市によるカメムシ緊急防除対策補助事業（新設）の活用による防除徹底を呼び掛けるなどで、品質低下の防止に努めた。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、関係団体が出品する「米・食味分析コンクール」入賞に向けた支援を行うなど、「ひめの凜」の認知度及びブランド力の向上に取り組む。</p> <p>○今治地区では「ヒノヒカリ」から「ひめの凜」への品種転換が急速に進んでおり、当室としても、更に品種転換を推進して産地拡大を図る。</p>			
 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  コンクールに出品した園地         </div> <div style="text-align: center;">  収穫開始を報道公開         </div> <div style="text-align: center;">  コンクール出品に向けて品質検査         </div> </div>				

標 題	豪雨被災園の営農再開に合わせて鳥獣被害対策研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年10月15、24日	場所	今治市上浦町	
指導対象	新規就農研修生等（9人）	連携機関	猟友会、JA おちいまばり、今治市	
普及指導内容	<p>○再編復旧が進む上浦地区のうち、営農を再開した海側区画で、主にイノシシ被害対策の技術向上を目指し、研修生を対象に防護柵設置の実習を行った。</p> <p>○当室は、広範囲のほ場を一括して効率的に守るワイヤーメッシュ柵の設置、保守管理や周囲の環境改善の重要性、各種補助事業の有効活用を指導した。</p> <p>○また、地元の先輩農家等と、集落や隣接ほ場の農家と連携した防護柵の設置、捕獲後の処理に向けた猟友会との連携等について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修生らは2日間で再編復旧園約1haに防護柵の設置を完了。今回の研修会で得た知見を活かして、就農後にも対策を行いたいと意気込んでいた。</p> <p>○今後も引き続き、防護柵の保守管理、わなの設置や狩猟免許の取得など、対策技術の向上と被害減少に向けた支援を行っていく。</p>			
 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  ワイヤーメッシュ柵の設置         </div> <div style="text-align: center;">  イノシシの痕跡等を確認         </div> <div style="text-align: center;">  研修ほ場を囲むように設置         </div> </div>				

標 題	しまなみかんきつ研究会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年10月17日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	しまなみ地域かんきつ生産者等 (51人)	連携機関	今治市・上島町・JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○当日は、島しょ部のかんきつ生産者や関係機関職員を対象に、愛媛県試第48号「紅プリンセス」の特性をふまえた栽培方法や、有機農業の技術実証の事例を紹介。</p> <p>○このほか、機械導入による省力化技術についての研修を行った。</p> <p>○会場では、駐在所で栽培している香酸かんきつのパネル展示と、ライム2品種の試食を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「紅プリンセス」の着果管理や、省力機械導入に係る経費、防除効果などについて熱心に質問があり、新品種や省力化に対する関心の高さがうかがえた。</p> <p>○今後も、高品質安定生産や持続可能な農業技術の普及、省力化技術の導入を一層促進することで、しまなみ地域のかんきつ生産力の強化と産地の活性化に努める。</p>			
  				
「紅プリンセス」の栽培管理		日焼け防止等の着果管理を指導		省力防除の実演

標 題	イタリア料理ファン向けにしまなみみんなのディッシュを紹介		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月26日	場所	ポパイズクラブオリーブ園 (今治市吉海)	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携機関	ロカンダ デル クオーレ (青江氏)	
普及指導内容	<p>○当室は、しまなみみんなのディッシュアドバイザー青江氏の協力を受け、市内で開催されたイタリア料理の飲食イベントに参画し、ディッシュ会員が生産・加工するイタリア野菜やオリーブオイル、ワインを提供してPRし、製品の需要拡大を図った。</p> <p>※イベントは「イタリア好き委員会」主催</p>			
結果と今後	<p>○20人の県外イタリア料理ファンが参加し、イタリア料理とワインの飲食のほか、オリーブの収穫体験などが行われた。</p> <p>○参加者からは、「質の高いオリーブオイルができるまで、栽培の様子がよくわかった」「今治産の農産物を使った料理はおいしかった」「他の生産者の商品にも興味がある」というコメントをいただいた。</p> <p>○これを機会に、今後もイベント主催者と情報交換し、これまで手薄であった県外のイタリア料理ファンに届くような一般消費者向けの情報提供と販路拡大につなげてまいりたい。</p>			
  				
飲食とオリーブ栽培の紹介		オリーブの収穫体験		イベント主催者発行雑誌

標 題	花木の挿し木講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月8日、9日、17日	場所	JA おちいまばり弓削支店、大三島支店、伯方支店、日高集荷場	
指導対象	花木生産者（19人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○管内の花木生産において、新規栽培者と補植・増反希望者の苗の確保・遅延が課題であることから、主要種の1つである「ピットスポラム」について、挿し木講習会を実施した。</p> <p>○講習会では、挿し穂の準備から挿し木終了までの一連の流れを実演しながら、挿し穂の長さや基部に適した位置など、各作業のポイントについて説明した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会の結果、新たに5人の生産者を挿し木の実施につなげた。今後はJA指導員と定期的に手厚く巡回し、挿し木および育苗状況等を確認する。</p> <p>○また、管内の挿し木実施生産者の掘り起こしと技術定着を図るため、JA指導員と連携して定期的な講習会の開催や巡回を実施していく。</p>			
				
			<p>左：講習会実施状況 右：作業のポイントについて説明</p>	

標 題	環境データの活用による若手いちご農家の育成		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月3日	場所	東温市田窪	
指導対象	いちご生産者（4人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○環境データ等を活かした栽培管理を実践するため、松山市と東温市の若手いちご生産者を対象に第2回勉強会を開催。</p> <p>○実証ほでは、昨年より約1か月早く環境モニタリング機器を設置（例年：11月末）するとともに、定植後から年内までの栽培ポイントについて指導した。</p> <p>○また、「生育調査とデータの活用」について、愛媛大学によるオンライン勉強会を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「初期管理の重要性や観察・生育調査の必要性を理解した」「各種データのまとめ方や、活用方法がわかった」等の声があり、環境データ等を栽培に活用する知識を習得した。</p> <p>○今後、環境機器を設置した施設で月に1回勉強会を開催し、各種データを生産者間での情報共有や個々の栽培管理向上のため活用する。</p>			
				
			<p>左：生産者が製作・設置した環境モニタリング機器 右：オンラインでの勉強会</p>	

標 題	新規就農者の経営管理能力をスキルアップ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月3日	場所	えひめ農業未来カレッジ	
指導対象	新規就農者（8人）、農業研修生（7人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○新規就農者等の経営管理能力の向上支援を目的に、パソコンを活用した農業簿記の記帳や決算書作成等を体験する研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、多くの農家が利用している農業簿記ソフトを用いて、簿記の基礎知識に関する講習やパソコンを使用した取引伝票の入力演習等を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、「パソコンを使えば簡単に記帳でき、経営の把握・改善に役立つ」等の声があり、簿記記帳に関するスキルを身に付けた。</p> <p>○今後、希望者を対象に決算処理・申告関連の研修会を開催する予定。</p>			
			<p>左：農業簿記の基礎知識を学ぶ 右：パソコンによる入力演習</p>	

標 題	猟友会へのアンケート調査による課題抽出		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月17日	場所	猟友会各支部長宅他	
指導対象	管内猟友会各支部長(20人)	連携機関	松山市、東温市	
普及指導内容	<p>○鳥獣害対策の「攻め」の核となる猟友会に対し、課題を抽出するため、7月18日から9月25日にかけて管内猟友会の各支部長を訪問し、聞き取りによるアンケート調査を実施した。</p> <p>○アンケートでは、各支部での活動状況や日頃の活動での問題点等について調査した。</p> <p>○結果については、関係機関の担当者と共有するため、課題や要望等を取りまとめた。</p>			
結果と今後	<p>○アンケート結果では、①会員減少・高齢化が顕著である、②ベテラン猟師は能動的な活動から受動的な活動に変化している、③狩猟現場では事故やトラブルを生じている等から会員確保に閉鎖的な姿勢が見受けられた。</p> <p>○今後は、関係機関の担当者とアンケート結果を精査・共有するとともに、会議等で活用できるよう資料として整理し、鳥獣害対策に活用する。</p>			
			<p>左：各支部長への聞き取り 右：被害防止のため、かんきつ園地に設置した防護柵</p>	

標 題	集落見回り活動による鳥獣害対策を強化		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年10月23日	場所	伊予市中山町	
指導対象	佐礼谷集落代表者、猟友会員(2人)	連携機関	伊予市	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「鳥獣害防止対策月間」の取組みとして、鳥獣害防止に向けた意識啓発を図るため、鳥獣管理専門員と連携し集落での捕獲対策の見回りを実施した。</li> <li>○イノシシの侵入を防ぐワイヤーメッシュ柵の接合部の緩みに対し、番線等での補強や雑草の接触による漏電を防ぐため、電気柵周辺の定期的な草刈りを指導した。</li> <li>○また、箱わなに関しては、効果的な捕獲ができるよう猟友会員と蹴り糸の位置や餌付け方法等について協議した。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箱わなでの捕獲を強化するため、蹴り糸の位置を調整するとともに、餌は米ぬかを中心に粟、くず米とし効果を確認する。</li> <li>○今後も定期的な見回り等を行い、鳥獣害に強い集落づくりを支援する。</li> </ul>			
				<p>左：防護柵の適正な管理指導 右：箱わなの蹴り糸と餌の協議</p>

標 題	次代を担う青年農業者リーダーが情報交換		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年10月30日	場所	伊予市、砥部町	
指導対象	中予管内青年農業者(16人)	連携機関	えひめ農林漁業振興機構、管内市町	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○松山・上浮穴・伊予地区の青年農業者連絡協議会が、リーダーとしての資質向上や仲間づくりを目的に、中予ブロック青年農業者リーダー研修会を開催した。</li> <li>○研修会では、各地区の活動報告や意見交換を行い課題や今後の活動方を共有した。</li> <li>○また、自然農法の福岡農園(伊予市)と農事組合法人ななおれ梅組合(砥部町)では、環境に配慮した持続的な生産技術や消費者が求める加工流通について学んだ。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各協議会ともに、会員数の減少が課題となっており、会員確保に向けた取り組みやプロジェクト活動の必要性について意見を交わした。</li> <li>○参加者からは「他地区と意見を交わすことで、今後の地域課題解決の参考となった」「現地事例をヒントに、自身の経営に活かしていきたい」などの声があった。</li> <li>○今後も、中予管内の青年農業者が活発に交流し、仲間づくりや「稼げる、かつこいい、感動を楽しむ」農業経営が実践できるよう指導する。</li> </ul>			
				
各地区の活動報告及び意見交換		かんきつ類の自然農法について説明を受ける(福岡農園)		七折小梅の歴史や加工流通について研修(ななおれ梅組合)

標 題	「久万高原秋の収穫祭」の開催		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年10月27日	場所	久万農業公園アグリピア	
指導対象	久万高原町青年農業者協議会員(6人) 久万高原町生活研究協議会員(12人)	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	<p>○久万高原地域の活性化を図るため、「久万高原秋の収穫祭」が開催され、参画した農業者組織の活動を支援した。</p> <p>○地域食材の生産振興を図るため、生活改善研究協議会が調理した雑穀(たかきび)を使用した「クーマカレー」(200食)の試食を実施し、雑穀の認知度向上を図った。</p> <p>○青年農業者協議会は、小学生以下を対象とした餅つき体験や餅の即売を通じて消費者との交流を深めた。</p> <p>○パネル展示では、当指導班の実証ほ場で取り組むトマト、ピーマン等の高品質、安定生産技術の成果を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○クーマカレーのアンケート調査(96名)では「タカキビの食感が良かった」「体にやさしそう」「飲食店販売したら食べに行きたい」などの意見が寄せられた。</p> <p>○当指導班では今後も関係機関と連携し、活動成果の普及やイベントを通じた農業者組織の活動支援に努めるとともに、久万高原農業の魅力を広く発信する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">行列ができたクーマカレーの試食    子供達による餅つき体験    各種実証成果のパネル展示</p>				

標 題	「甘平」の裂果軽減対策の実証結果		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月17日、21日	場所	松山市浅海等	
指導対象	「甘平」裂果対策実証ほ設置農家(3人)	連携機関	JA(松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○「甘平」の裂果は、温暖化に伴う夏秋季の高温乾燥と集中豪雨による、土壌水分や果実肥大の急変で助長される。</p> <p>○そこで当室では、電磁弁等を活用した多頻度及び多量かん水による、裂果軽減対策実証に取り組んでいる。</p> <p>○JA指導員等と連携し、調査樹の裂果率調査を実施し、軽減効果を検証した。</p>			
結果と今後	<p>○かん水チューブの増設による多量かん水(慣行の2倍のかん水)では、裂果率は低下したが(慣行より22%減)、電磁弁の設置による多頻度かん水(約2mm/3回/日)では減少効果は確認されなかった(同1%減)。</p> <p>○得られたデータは中晩柑産地づくり協議会等において、生産者や関係機関と協議し、次年度の実証試験や普及の方向性について決定する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">左：設置した電磁弁 (多頻度かん水) 右：渦巻状に設置したかん水チューブ (多量かん水)</p>				

標 題	夏季自家育苗の「さくらひめ」定植始まる		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月24日、26日、30日	場所	松山市、伊予市、東温市、松前町の生産ほ場	
指導対象	「さくらひめ」生産者（7人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、卒業式等の需要期出荷を目的に夏季自家育苗技術の実証に取り組んでいる。</p> <p>○切り花では9月上旬に播種し、冷蔵庫等で育苗した苗を10月下旬に定植した。鉢物では年内出荷を行う生産者について8月下旬の定植以降、栽培管理を行っている。</p> <p>○当室は生産者を対象に、育苗ステージに合わせたかん水や施肥管理、定植前のほ場準備、定植後の病虫害対策等について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○切り花において、夏季自家育苗した苗の生育は良好で、慣行区よりも10日程度早く定植することができた。</p> <p>○鉢物では病虫害被害もなく順調に生育が進んでおり、11月上旬頃から出荷が始まる見込み。</p> <p>○12月には、生産者と市場を含めた関係者による現地検討会を開催することとしており、1番花の開花等生育状況の確認を行う。</p>			
				<p>左：切り花生産ほ場における定植 右：鉢物「さくらひめ」 (11月上旬頃出荷開始予定)</p>

標 題	一次産業女子のグループ化に向け検討開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月6日	場所	企業組合津島あぐり工房 あすも	
指導対象	一次産業女子さくらひめネットワークメンバー（2人）	連携機関	農地・担い手対策室	
普及指導内容	<p>○当室では、一次産業女子を支援するため、さくらひめネットワーク活動への参加を呼び掛けており、今年度は3名が入会することとなった。</p> <p>○会員からより幅広く活動したいとの意見があったことから、組織化の提案を行い、交流会を実施し会員同士の検討の場を設けた。</p> <p>○交流会では、グループ結成に向けた話し合いと、こんにゃく作りを実習した。</p>			
結果と今後	<p>○管内には水産業の一次女子がいるため、農業に止まらない幅広い活動を行うことを検討し、一次産業体験ツアーを行いたい等のアイデアが出た。</p> <p>○また、地域の担い手確保や女性リーダー育成のために活動したいとの意見で一致し、来年度までにグループ結成を目指すことになった。当室は、引き続きグループ化に向けて支援していく。</p>			
				<p>左：グループ化に向けた話し合い 右：こんにゃくづくりの様子</p>

標 題	生食用さといも生育順調		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月11日	場所	宇和島市、鬼北町全域	
指導対象	さといも「伊予美人」生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当室では、さといもの増収を目指し栽培講習会や個別巡回等を実施するとともに、転流促進剤の散布による増収効果を実証している。</p> <p>○品質向上のため出荷目揃い会を開催すると同時に、試し掘り調査を行い令和6年産の作柄を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○今年産の作柄予測は、昨年同時期と比較して、「やや良～かなり良い」との結果となった。</p> <p>○また、害虫被害や軟腐病等も少なく、9月下旬から収穫が始まっている。</p> <p>○転流促進剤は高い効果が確認できたが、年次変動をみるため、次年度も調査を継続する。</p> <p>○種用さといもについては、今後、JAと連携して試し掘りにより生産量を予測する。</p>			
<p>【転流促進剤】 根菜類の地下部の肥大促進に効果が認められているビタミンの一種、「コリン」を含む葉面散布用の肥料。</p>				<p>転流促進剤の散布実証</p> <p>栽培講習会</p>

標 題	郷土料理づくりで小学生と交流		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年10月3・28日	場所	鬼北町立好藤小学校・三島小学校	
指導対象	生活研究協議会会員（10人）	連携機関	鬼北町	
普及指導内容	<p>○鬼北町内にある小学校の児童を対象にえひめ食文化普及講座を開催し、生活研究協議会会員が講師となり、郷土料理づくりを通して食文化の普及・継承を行った。</p> <p>○当室は、講座で作るメニュー等の事前検討や、当日の運営を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「初めてきじ飯を作ることができた」「いろんな野菜を切ることができ楽しかった」などの声があり、郷土料理づくりに興味を示していた。</p> <p>○次世代を担う子供たちに、調理体験を通して伝統的な食文化への理解促進ができた。</p> <p>○当地区においては、今年度は小学校6校、中学校2校で講座を開催することとしており、生活研究協議会と共同で継承活動を実施していく。</p>			
				<p>左：始めのあいさつ</p> <p>右：里芋切りに挑戦</p>

標 題	鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年10月8日	場所	松野町蕨生真土地区	
指導対象	地区農業者等（3人）	連携機関	松野町	
普及指導内容	<p>○県の鳥獣害防止対策強化月間（10月）に合わせて、連携機関と共に、鳥獣被害状況の確認や、侵入防止柵の見回り活動を行った。</p> <p>○イノシシの被害が見られたワイヤーメッシュ柵設置のくり園地で、柵の状況を確認したところ、数箇所で地際の鉄筋が外側から引っ張られて折れ曲がり、侵入経路となっていた。</p> <p>○このため、柵の補強対策として、柵の地際に竹などを設置して固定する方法を助言した。</p>			
結果と今後	○対象地区はイノシシの被害が特に多いため、今後の被害軽減に向け、柵の設置と補強を組み合わせた対策を取りまとめた資料を作成し、町を通じて農業者に配布する予定。			
				<p>左：侵入防護柵の見回り</p> <p>右：イノシシにより破壊された防護柵の鉄筋</p>

標 題	「シャインマスカット」の普及に向けた販売 PR		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年10月13日	場所	鬼北町奈良川河川敷会場	
指導対象	就農希望者、農業者（5人）	連携機関	鬼北地区認定農業者協議会	
普及指導内容	<p>○当班では高収益作物として期待される「シャインマスカット」の実証栽培を通じ、地域への普及を目指している。</p> <p>○先月開催した「儲かる農業鬼北地区交流セミナー」での栽培管理の紹介に続き、鬼北町最大のイベント「でちこんか 2024」で当班の収穫物を販売し、来場者に鬼北町産の食味の良さをPRした。</p> <p>○販売は鬼北地区認定農業者協議会と連携して行い、用意した150パックは午前中で完売した。</p> <p>○同会員らは同町での高収益作物として、可能性を実感した様子であった。</p>			
結果と今後	<p>○ぶどうの栽培面積が小さい当地域において、住民らに鬼北町産「シャインマスカット」を広く認知することができた。</p> <p>○今後も高収益作物の導入などを推進し、儲かる農業の実践を目指す。</p>			
				<p>左：シャインマスカット実証栽培（鬼北農業指導班内）</p> <p>右：「でちこんか」での販売 PR</p>

標 題	青年農業者を対象にかんきつ省力栽培技術について研修を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年10月2日～4日	場所	福岡県農林総合試験場 JAみなみ筑後山川選果場 他	
指導対象	青年農業者（9人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○かんきつ農業の生産性向上に向けたプロジェクト活動の一助とするため、福岡県の生産効率の高い栽培管理方法等について研修を実施した。</p> <p>○同県では改植推進により未成園が増加していることから、早期樹冠拡大及び省力技術の確立を目指して、試験場が実証中の省力樹形「双幹形仕立て」について聞き取りしたほか、JAみなみ筑後柑橘部会の中核農家と、樹形や園内道整備による省力化の手法について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「省力樹形による作業の斉一化によって属人性をなくすことが重要だと分かった」「産地の存続・発展に向けて取り組む篤農家のバイタリティの高さを実感した」と今後の営農に意欲的な意見が聞かれた。</p> <p>○当班は引き続き、プロジェクト活動を支援するとともに、意欲的な青年農業者の資質向上に向け指導していく。</p>			
				<p>左：双幹形実証の説明</p> <p>右：篤農家との意見交換</p>

標 題	端境期出荷を促す栽培講習会を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年10月6日	場所	宇和島市三間町 三間公民館	
指導対象	道の駅みま出荷者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○同駅の農産物の端境期（3月～4月）における出荷量の確保と新たな出荷品目の創出を図るため、冬春野菜栽培講習会（スナップエンドウ、子持ち高菜、シュンギク、青ネギ）を開催。</p> <p>○同品目は事前に生産者代表や同駅と協議し、周辺地域よりも冬季の温度が低い三間地区の栽培環境や過去の販売状況等を考慮して決定。</p> <p>○当日は品目毎に、ほ場準備や定植・は種直後の管理、越冬管理を中心とした作業内容について図示しながら説明した。</p>			
結果と今後	<p>○越冬管理の具体的な手法や当面の病害虫対策についての質問が多数あり、出荷者の栽培意欲が感じられた。</p> <p>○適切な越冬管理が収量確保に不可欠であることから、関係機関と連携して現地巡回と被覆資材等の情報提供を行い、端境期における充実した売り場づくりを目指す。</p>			
				<p>左：栽培方法を学ぶ参加者</p> <p>右：端境期の出荷を目指して関係者と品目を事前協議</p>

標 題	八幡浜・松山の小学生にかんきつ出前授業実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年10月16日、17日、25日	場所	八幡浜市立千丈小学校、松蔭小学校 川之石小学校、松山市立味生小学校	
指導対象	八幡浜市・松山市児童（計247人）	連携機関	八幡浜市	
普及指導内容	<p>○八西地区青年農業者連絡協議会員及び一次産業女子「∞農 Harvest」が行う八幡浜・松山の小学校での出前授業を支援した。</p> <p>○授業では、かんきつ栽培についてのDVD鑑賞や資材紹介、みかんの収穫体験を行い、児童のかんきつ栽培に対する理解促進につなげた。</p> <p>○資材紹介では、児童が収穫時に使う道具に直接触れ、収穫ばさみの使い方や果実に傷を付けない二度切りの方法などの指導を受けながらみかん収穫を体験した。また、収穫体験後には、ジュース3種の飲み比べも行った。</p>			
結果と今後	<p>○小学生からは「農繁期の一日のスケジュールについて」「一番大変な作業は何か」などの積極的な質問があり、かんきつ栽培に対する関心の高まりがうかがえた。</p> <p>○また、地域特産物や食に対する理解を深め、地域農業への関心を高めることができた。</p> <p>○今後も、農業体験を通じて地域や農業の魅力を伝えるため、食農教育活動を継続して行うこととしており、年明けには、市内や首都圏で中晩柑の出前授業も予定している。</p>			
				<p>左：収穫体験の様子</p> <p>右：収穫時に使う道具を会員が説明</p>

標 題	「紅プリンセス」本格着果に向けて栽培技術を指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年10月3日	場所	大洲市長浜町	
指導対象	「紅プリンセス」栽培農家	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○当班は「紅プリンセス」の施設栽培モデル園において、育成中である幼木の栽培管理について継続的に技術指導を実施している。</p> <p>○同品種で発生する生理的なす上がり対策として、幼木からの樹形づくりが重要とされており、これまでの事例からす上りの発生が少ない傾向の開帳した樹形を意識した主枝・亜主枝の誘引を指導するとともに、早期の樹冠拡大に向けた施肥・土壌水分管理及び病虫害防除等についても指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○対策により順調な生育が確認できていることから、今後は、来年の本格的な着果を見据えたせん定等栽培管理について指導し、高品質安定生産を目指す。</p>			
				<p>左：樹冠拡大中の幼木</p> <p>右：点滴による土壌水分管理</p>

標 題	定植最盛期！ラディッキオ定植をメディアが取材		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年10月1日	場所	大洲市五郎地区	
指導対象	ラディッキオ生産者	連携機関	JA 愛媛たいき、大洲市	
普及指導内容	<p>○管内で産地化に取り組んでいる全国的に希少な西洋野菜「ラディッキオ」の定植が最盛期を迎え、当班がメディアに呼びかけ、新聞社やケーブルTV等が生産者のほ場で取材を実施した。</p> <p>○取材では、当班が安定生産を目的に実施している保水資材の土壌施用実証試験の概要やJA 愛媛たいきから今年度の生育や販売促進計画等について情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は「今年は適度な降雨により、9月に定植した苗の活着は順調、生育も良好で収穫に期待を寄せている」と取材に応じていた。</p> <p>○地域の飲食店とのメニュー開発やSNS等の取組みを通じて、ラディッキオの知名度は年々向上、栽培面積も当初目標の300aを達成。</p> <p>○今後も関係機関と協力し県全体に向けたPRを行い更なる産地化に取り組む予定。</p> <p>○安定生産技術の確立に向けて、引き続き現地指導や実証調査を行う。</p>			
				<p>左：取材を受ける若手生産者</p> <p>右：定植したラディッキオの苗</p>

標 題	第2回いちご部会技術研究会でIPM防除体系を検討		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年10月16日	場所	JA 愛媛たいき 本所	
指導対象	JA 愛媛たいきいちご部会役員	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○昨年度実証したハダニ天敵（カブリダニ）防除の結果、天敵の秋・春の2回放飼が防除に有効、また継続的な導入が成功のポイントであることが明確になったことから、IPM技術導入推進のため新たな実証計画を提示した。</p> <p>○また、環境計測モニタリングにより生産性の向上を図るため、「データ駆動型施設野菜栽培事業」で低コスト環境計測機器を自作し、市販機器より安価に温度・湿度・日射量データをリアルタイムで収集できるメリット等を周知した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者から「天敵の放飼方法や影響のある農薬が分かりにくい」との意見があったため、当班では放飼の実演や防除暦の作成により対応することとした。</p> <p>○また、育苗期の微生物殺虫殺菌剤と定植後の天敵を組み合わせたハダニとアザミウマの一貫防除体系の技術導入に向け現地実証することとした。</p> <p>○モニタリング機器は、多くの生産者が関心を示したため、講習会等で機器の紹介と栽培管理に活用できる方法を検討する予定。</p>			
		<p>低コスト環境計測機器を説明</p>		

標 題	鳥獣被害軽減に向け集落見回り活動を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年10月2日、17日	場所	西予市三瓶町(蔵貫、有太刀、皆江地区)	
指導対象	西予市三瓶町生産者(6人)	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○鳥獣被害軽減に向け、10月の「鳥獣害防止対策強調月間」に合わせ、被害の大きい地区を対象に、集落見回り活動を実施した。</p> <p>○見回りでは、有害鳥獣捕獲免許を所持している生産者と、イノシシの侵入経路等を確認するとともに、捕獲状況と傾向、効果的な対策について協議した。</p> <p>○当班からは、捕獲と合わせ、まずは集落に寄せつけない取組みを行うこと、侵入されている場合は、侵入口を防ぐなどの対策が重要であることなどを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「昨年少なかった反動か今年の捕獲数はかなり多い」「中小型の動物のほか、イノシシも小型のものが多く畏にかかっている」といった鳥獣の個体数増加等とともに被害が減らないとの声が寄せられ、対策の必要性を認識する結果となった。</p> <p>○今後も、当班では農業者の生産意欲低下を防ぐため、効果的な鳥獣害対策について指導していく。</p>			
				<p>左：イノシシの侵入経路について確認</p> <p>右：わなの稼働状況、効果的な使い方について協議</p>

標 題	大野ヶ原にんにくの植え付け体験交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年10月9日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員(5人)	連携機関	西予市、株式会社祐	
普及指導内容	<p>○地域との交流活動を通じ、大野ヶ原にんにくの理解促進とPRを図るため、地元高校生、小学生を対象に植え付け体験交流会を開催した。</p> <p>○交流会では、種にんにくの種子割り、植え付け体験のほか、高校生より、大野ヶ原にんにくに携わった3年間の振り返りの感想発表、新たに開発した「にんにくプリン」の試食を行った。</p>			
結果と今後	<p>○植え付け体験では、「8か月後の収穫作業も是非行いたい」と期待の声が聞かれるなど、にんにくへの理解を深めるよい機会となった。</p> <p>○また、交流活動を通じ開発した「にんにくプリン」については、「思った以上においしい」「甘さ控えめで大人の味」といった感想が寄せられ、商品化への期待が高まった。</p> <p>○当班では、今後も交流活動等を通じた寒地系にんにくの産地化について、関係者と連携して取り組んでいく。</p>			
				<p>左：「にんにくプリン」の試食</p> <p>右：種子割機による調整作業を体験</p>

標 題	7年産麦の安定生産に向けた協議を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年10月4日	場所	県農林水産研究所	
指導対象	作物調査研究会員（51人）	連携機関	全農えひめ、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○愛媛県の麦類の安定生産に向けて、全農えひめと連携し、第2回作物調査研究会を開催した。</p> <p>○各地方局支局から、6年産麦の生産状況および反省点について報告後、次年度産麦栽培に向けて栽培管理の見直や、病虫害対策等について協議を行った。</p>			
結果と今後	<p>○本研究会を通して、近年の異常気象によりこれまで以上に徹底した栽培管理が求められる中、排水対策や麦踏み等の重要性を再認識することができた。</p> <p>○今後も定期的に研究会を開催し、普及指導員の知識と技術力の向上を図っていく。</p>			
		<p>麦の栽培管理について説明</p>		

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543